

学習指導要領の改訂に向けた動きなど  
お役立ち Hot 情報をお届けするニュースレター

# きょういく プレス



平成 28 (2016) 年 10 月 20 日

第 24 号

発行 桐ぎょうせい

(隔週木曜発行)

〒 136-8575 東京都江東区新木場 1-18-11

フリーコール 0120-953-431

フリー FAX 0120-953-495

Web サイト <http://gyosei.jp>

e-mail [Eigyo-edu@gyosei.co.jp](mailto:Eigyo-edu@gyosei.co.jp)

「ぎょうせい」は、学校教育に携わる皆様のため、  
教育行政・学校学級経営・教科教育・授業づくりに  
関する書籍をはじめ、様々なコンテンツをご提供し  
ています。

## 文部科学省

### 「主体的・対話的で深い学び」の基盤 学校図書館の現状とこれから

#### —最新調査結果と有識者提言、公表

10月13日、文部科学省は平成28年度「学校図書館の現状に関する調査」の結果を発表した。調査対象は、国・公・私立の小、中、高、特別支援学校、義務教育学校、中等教育学校。司書教諭や学校司書など「人的整備の状況」、図書資料や情報メディア機器など「物的整備の状況」及び「読書活動の状況」を調べるもので、平成20年度以降は隔年で実施されている。

#### ●学校司書の拡充と蔵書量に課題

学校図書館法が12学級以上の学校において必置と定めている司書教諭の発令状況は、全学校数の98%（前回調査96.2%、以下同様）、11学級以下の学校でも30.6%（27.8%）の学校が発令をしている。司書教諭に対して負担軽減のため「授業時数を軽減している」とした学校は11.4%（8.7%）、司書教諭が学校図書館を担当する平均時間数は2.2時間（1.4時間）と、司書教諭の活用が進んでいることがうかがえる。

一方、「学校図書館の運営の改善及び向上を図り、児童又は生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の促進に資するため、専ら学校図書館の職務に従事する」職として同法に配置努力規定がある学校司書の配置状況は、56.3%（55.4%）、常勤の学校司書がいる

学校は18.7%（16.9%）であり、なお拡充の課題が残る。

また、平成5年に文部科学省が設定した「学校図書館図書標準」は学級数に応じた蔵書冊数の目標（例えば12学級なら小7,960冊、中10,720冊など）を示したものであるが、本調査では、この蔵書冊数目標に対する達成状況も見ることができる。

達成率100%の学校は、小66.4%（60.3%）、中55.3%（50.0%）、達成率75%未満の学校は、小9.3%（12.5%）、中15.5%（17.8%）であり、改善傾向にはあるものの、「標準」が設定されてから既に20数年が経過していることを踏まえると、全ての学校で目標達成に至るまでの道のりはまだ長い、と言えるだろう。

#### ●「学校図書館ガイドライン」策定へ

こうした現状を踏まえながら、学校図書館の改善をどう図っていけばよいか。——昨夏立ち上げられた学校図書館の整備充実に関する調査研究協力者会議は、10月20日に報告書を取りまとめた。

報告では、大学等における学校司書養成のためのモデルカリキュラム案を示したほか、学校図書館運営上の重要な事項に関する「学校図書館ガイドライン」策定を提言。ガイドラインの構成案は、学校図書館の①目的・機能、②運営、③利活用、④携わる教職員等、⑤資料、⑥施設、⑦評価等。本提言を受け今後策定されるガイドラインに基づいて、校長は館長としてPDCAサイクルの中で学校図書館の運営を組織的に行うことが求められることとなる。

次期指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の基盤として、学校図書館は今まで以上に、その役割に期待が寄せられている。

大好評発売中！  
月刊シリーズ  
(全12巻)

# 新教育課程ライブラリ

A4判 / ぎょうせい [編]

各巻定価：本体（1,350円+税）  
セット定価：本体（16,200円+税）

今からできる次の学びづくりを強力にサポート。  
第一線の執筆陣による解説・提言と各地の教育委員会・学校の実践紹介により  
各巻特集テーマを徹底追究！

- 連載ラインナップも充実！ ●新課程を生かすカリキュラム・マネジメント（天笠 茂）／●「育ち」と「学び」をつなげる授業（奈須正裕）
- 実践！アクティブ・ラーニング研修（村川雅弘）／●ミドルリーダーが創るこれからの学校（大脇康弘）／●学校改革の新定石（西留安雄）
- 教育課程改訂の動向（文部科学省初等中等教育局課教育課程課）／●新学習指導要領に向けた指導の充実（教科調査官リレー連載）（ほか）

## ●既刊——好評発売中！

- Vol.1 新教育課程型授業を考える  
——アクティブ・ラーニングの理論と実践
- Vol.2 学校現場で考える「育成すべき資質・能力」
- Vol.3 子どもの姿が見える評価の手法
- Vol.4 新教育課程を生かす管理職のリーダーシップ  
——次世代に求められる資質・能力の育成に向けて
- Vol.5 学校ぐるみで取り組むカリキュラム・マネジメント
- Vol.6 「チーム学校」によるこれからの学校経営
- Vol.7 これからの授業力と研修
- Vol.8 特別支援教育の実践課題
- Vol.9 カリキュラムからみる不登校対応

## ●続刊ラインナップ

- Vol.10 全国学力・学習状況調査にみるこれからの課題  
——10月24日刊行！
- Vol.11 「社会に開かれた教育課程」を考える  
——11月中旬刊行予定
- Vol.12 見えてきた新学習指導要領  
——12月中旬刊行予定

## Vol.10 全国学力・学習状況調査 にみるこれからの課題

### ■特集——全国学力・学習状況調査にみる これからの課題

#### ●解説

- 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた新教育課程実施上の課題（千々布敏弥）
- 【小・国語】学びの文脈を創る国語科授業の推進——活用力を高めるメタ認知の重視（樺山敏郎）
- 【中・国語】言語活動を通して、知識・技能を使い、思考・判断・表現する授業の一層の充実を（富山哲也）
- 【小・算数】式の表現と読みの課題から展望する指導の改善・充実（巖部年晃）
- 【中・数学】数学的な見方や考え方を働かせる数学的活動の充実を（清水美憲）
- 【小・質問紙】何を学び、どう生かすか（寺崎千秋）
- 【中・質問紙】質問紙調査を活用し、学習指導と学習環境の改善・充実を図る（壺内 明）

#### ●提言

- 子どもたちに育みたい資質・能力とは（梶田叡一）

10月24日  
出来！  
最新刊



●学習指導要領改訂に向けた中央教育審議会の状況を中心に、先生方のお仕事に関わるトピックをお届けしてきた「きょういくプレス」。昨年10月15日の第1号発行から、丸1年がたちました。手探りのスタートではありましたが、読者の皆さまに支えていただきながらここまで発行を続けることができました。ありがとうございます。●今年12月に中央教育審議会答申、年度末に次期学習指導要領の告示といよいよ改訂は大詰め段階へ。これらの動きについても引き続き「きょういくプレス」にてご紹介していきます。●「きょういくプレス」無料メール配信サービスにたくさんのご登録をいただき、ありがとうございます。まだの方はぜひこの機にご登録ください！右QRコードより登録専用サイトにアクセスすることができます。



### ●ご注文・お問い合わせ先

株ぎょうせい  
フリーコール 0120-953-431  
フリーFAX 0120-953-495  
Webサイト <http://gyosei.jp>  
e-mail [Eigyo-edu@gyosei.co.jp](mailto:Eigyo-edu@gyosei.co.jp)

◎取扱者